

○問題は、全市町村に宣言を実施させる計画を立て、地元に対して幹事が電話を掛けないと、目標を立てて取り組んでくれ。具体的に提起してやってほしい。

○常陸那珂は合併してから、議員を含めて、議会で平和都市宣言の話をしてこなかった。宣言をさせるには、議会に正式に申し込まないと実現は進まない。

○議会的一般質問でやると通ることが多い。いろいろやって見ることが重要だ。



○八郷では平和行進には湯茶の接待があった。合併前には要請していた。合併前は「市で宣言しているからいいだろう」と言っていた。合併後に支所に看板が出るようになった。

○議案では、原発に対する件に、「核の平和利用ということで取り組みが遅れた」と書かれているが、そのような議論があったのか。「核と人間は共存できない」と取り組んでいるが、「核エネルギーをどのように利用すべきか」も考えた。米国と自民党は乱暴な形で原発を導入し、支配のテコとしてきた。現在存在している原発は、廃止すべきものだ。平和的な核の平和利用は必要じゃないかと考えている。自主・民主・公開をpushして法律になった。しかし遵守されなかったことが福島原発事故につながっている。湯川秀樹の辞職もある。批判的な態度で原発事故の講師をやってきたが、力及ばずが現実だった。自然エネルギーへの変換は、アメリカを脅かし、日本に大きな力となる。

NPPT再検討会議への対応は重要だ。不平等条約の問題もある。やはり「核」は全面的になくすことしかない。2015年まで黙っていることはできない。核兵器全面禁止の署名がその実現の大きな力となる。日本がどのようにバックアップするかが大切だ。福島の原発事故を契機として、ピキニが再現されている。「核兵器廃絶署名」と「原発事故の実相を示すこと」「被爆者支援」の3本柱をもとに連帯する運動を進めてほしい。平和行進は通し行進社1名、県内通し行進者2名の3名で行

進する。もう一歩進めて脱原発を進める人たちを取り込んだ形で行進を行うことは、東海第二原発を廃炉にする取り組みと連帯してやってほしい。

○しかし、「核の研究は必要」という言葉そのものが、客観的には原発を推進する側に利用されてしまったことも事実だ。

○県知事に対する署名提出の会は、組織の一方の勢力の相沢東海市議会議員は抜けた。今後どう対応するのか。(回答 残った団体を中心に新たな会を結成する。)

○原発は事故を起こしたが、原発事故について教育するため、文科省が副読本を出した。千葉では1人ひとりの生徒に渡された。自身は「放射能は自然にもある。平和利用もある大変なものではない」という視点になっており、非常に問題の副読本だと思う。

○12年前のJCO臨海事故も時も、県が3種類(小学校高学年、中学校、高校)の副読本を作成して子どもに配った。県高教組が問題にある内容の部分を書き換えるよう、県教委と交渉した。話に出た副読本はそれではないか。(回答 新たに作成した副読本です)

○自衛隊への反対はどうだろうか。建設隊にするとか。原発事故や震災では、アメリカの「トモダチ作戦」と同様に支援活動で存在をアピールしている。「自衛隊反対」は本当に少なくなってきている。国土建設隊のような形になってきている。しかし実際はどうか?自衛隊そのものは、憲法九条違反だ。米軍の「トモダチ作戦」と同様に、なんらかの事故があると「防衛」というより「困った時は利用する」ということになる。

○長期的には「武装勢力」だ。災害の時には、道具を持っていく、訓練もされている。装備を含めて、他の団体とは比べものにならない。自衛隊の存在を問題視している人でも災害の出動には反対よりも「出てこい」ということになる。国の税金を使って存在しているのだから当然の選択だ。これは「武力行使」とは全然別個の問題だ。

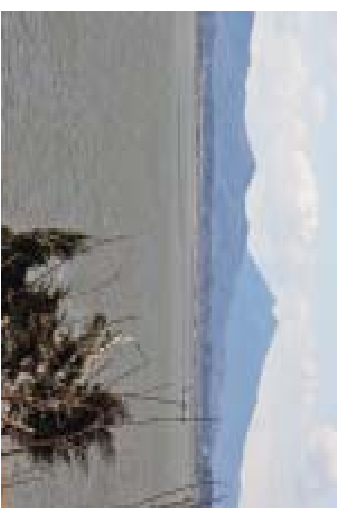
自衛隊は25万人もいる。自衛隊がなくなれば災害レスキュー隊などの組織を作ればいい。その際は3万人はほどでもいいかも知れない。

○自衛隊が災害に出動するのは当然だ。しかし「トモダチ作戦」などで、米軍と共同行動をするのは別問題だ。災害出動と米軍との共同作戦とをきちんと分けることが必要だ。

○「自衛隊は必要だ」という評価に巻き込まれないよう、我々の立場をきちんと追及していくことが重要だ。

○このような大きなことは代表理事会で討議してきてほしいかつた。この理事会の席上で、代表理事から提起されても困る。提起するなら代表理事会で論議した上で提起してくれ。

○日本平和委員会を「日平(にっぺい)」という言い方をするが、「日本平和委員会」と、きちんとした言い方をすべきだ。聞きぐるしい。



仲間づくり

○6月17日に茨城平和委員会の定期大会がある。仲間づくりで、今年度は思うようにいかなかった。各平和委員会が最低1名の新しい仲間を迎えてもらいたい。意見や決意を出してほしい。大会までに平和の会・平和委員会ごとに、1人以上、新しい仲間を迎えよう。

○水戸では会員が12人も増えている。いろいろ教訓があると思う。仲間づくりは大事とわかっていても、なかなか足がでない。また、「平和委員会に入ってもいい」という話になっても、金がかかるので大変だという話になる。いくつかの会に加入している人が多い。年金者組合では、ピラマキなどをおこない、1人増えたという。地域でもやっている。

○仲間づくりを難しく考えて、「動かなければ」と思うと、逆に動けなくなってしまう。家族でもなんでも「会費を払ってもらうだけでもいいよ」ということで加入して加入しなくてもいいのではないか。加入してから運動に入ることもある。最初から「運動に参加してほしい」ということは、加入する人も厳しく感じる。

加入して、すぐに「新聞の手配りをやってほしい」などという加入しない。加入してからいろいろな働きかけを行い、徐々に活動にも参加してやる。皆さんのように「活動する」では、なかなか加入してこない。1年間で1人の新たな加入者も出せなかった役員には、ペナルティを出すことも考えたらどうだろうか。(笑)

石岡では平和かわら版の70%は手配りしている。手配りは人間関係を深める。人間関係を深めない加入を増やすのは難しい。呼びかける人の多くは、他の団体にも加入している。会費の支払いは大変な人も多い。しかし家族会員は1ヶ月300円だ。娘や子どもなら300円の家族会費という規約になっている。みんな頑張って、年間に1人は新しい会員を迎えることをお願いしたい。

○仲間づくりの原則は当然「呼びかけ」だ。呼びかけなければ加入しない。「活動と仲間作りは車の両輪」ということが忘れられているのではないか。「仲間づくり」ということで「会費が・・・」ということが出てくる状況はいいことではない。「平和委員会はいい活動をやっている」ということで働きかけないと、仲間は増えない。

平和の会の「平和ツアー」で別の団体の役員も参加した。一緒に取り組みの中で「私も平和委員会に入ろう」と言ってくれた。「平和委員会は仲間が元気だ」「何かいいことをやっている」から「入ってみようかな？」という形にならないと、元気にならない。活動と仲間づくりとが、車の両輪のような取り組みの中で仲間が増えていく。

○「組織の拡大」というが「組織の拡大・強化」だ。組織がきちんとしていないと受け皿がないと同じで話にならない。組織がどのようになっているのか。平和委員会としてキチンとついで、強化していく。その中で仲間が増えないと強化にはならない。組織の強化をしないと増えない。うちの方では今は討議する状態にないので難しい状況だ。

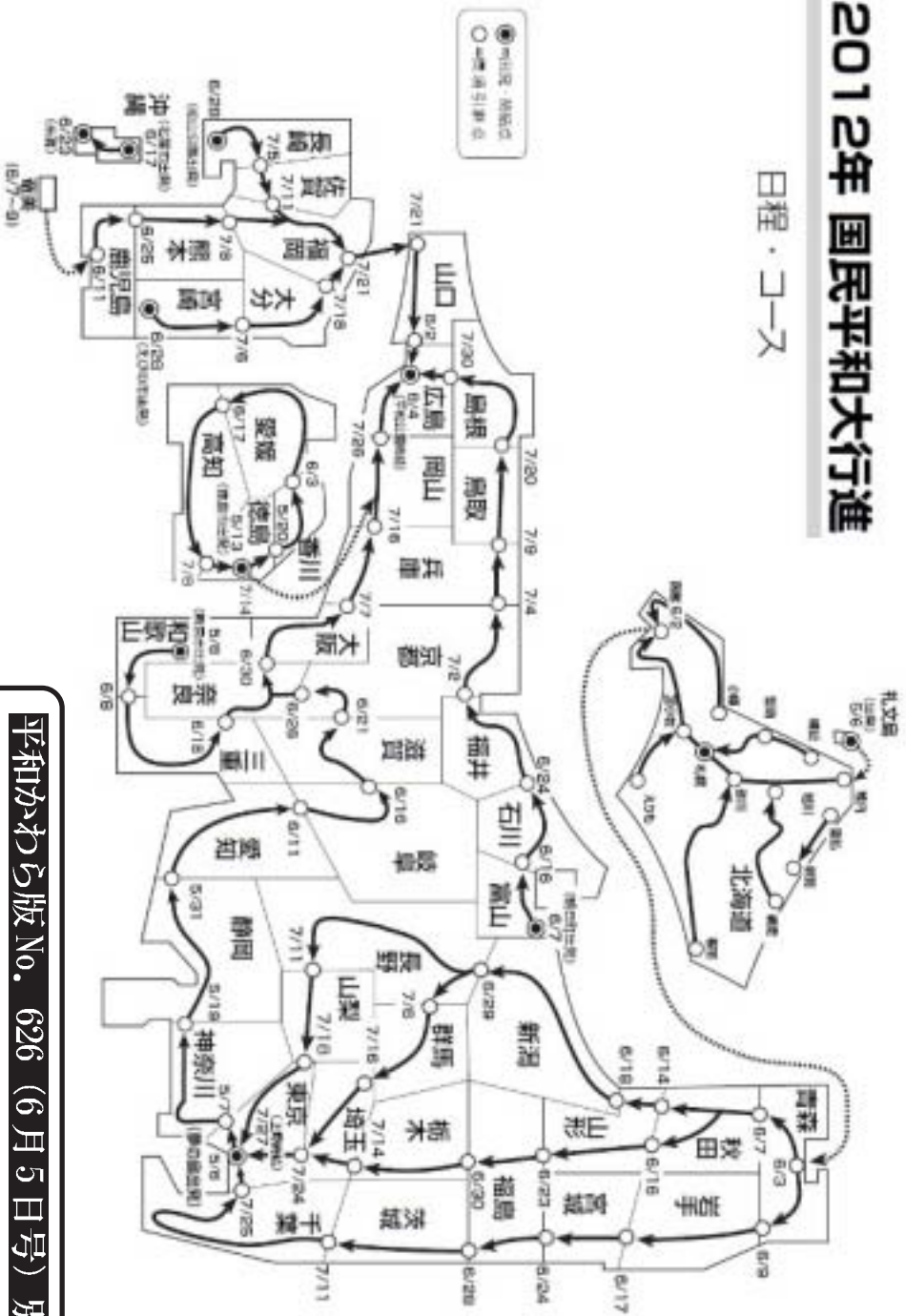
○それぞれの平和の会・平和委員会では、総会を開催して、事務局に資料を出してもらうといい。(事務局 各地域の会は、活動報告、会員の出入りについて報告してほしい)

○平和委員会の事務局は、各平和の会・平和委員会に対する「強制力」はない。だから「みんな決めて、みんな決めたことは、必ずやろう」と言うことで取り組んできた。その中でも厳しいのは「仲間づくり」だ。加入者が増えない。仲間づくりで厳しいのはどこでも同じだと思う。努力していくのが大切だ。年金者組合などの活動も見習って仲間づくりにまい進していこう。

○最後に20周年の計画について話し合いました。

2012年 国民平和大行進

日程・コース



平和かわら版 No. 626 (6月5日号) 別刷り